

財政課
教育指導担当

議案第74号

令和5年度港区一般会計補正予算（第5号）補足資料

1	国内修学旅行に必要とした費用と内訳について	2
2	学校ごとの徴収する費用等について	2
3	令和6年度海外修学旅行実施に向けての経緯について	3
4	海外修学旅行費用について	6
5	財政課による調整内容について	9
6	補正予算計上の考え方について	9
7	事業者選定の方法及び補正予算の経費の内訳について	10
8	保護者宛のお知らせが配付された経緯について	10
9	参考資料	11

1 国内修学旅行に必要とした費用と内訳について

生徒一人当たりの旅行代金（実費）	平均旅行代金
64,762 円～72,567 円	67,398 円

<内訳の例>

交通費：27,760 円 宿泊代：24,200 円 弁当・食事代：1,350 円
 拝観入場料：2,850 円 企画料金：6,473 円 その他諸経費：2,690 円

2 学校ごとの徴収する費用等について

(1) 各家庭から徴収する修学旅行費用について

上記の旅行代金として各家庭から 65,000 円～75,000 円を徴収しています。

(2) 修学旅行の欠席状況について

令和5年9月1日現在

在籍生徒数 A	参加人数 B	欠席者数 C	欠席率 C/A
599 人	559 人	40 人	6.7%

※令和5年9月1日現在未実施の2校を除く。

(3) 就学援助を受けている児童・生徒数について

令和5年8月17日現在

区分	児童・生徒数 A	要保護 B	準要保護 C	合計 D=B+C	認定率 D/A
小学校	10,773 人	37 人	937 人	974 人	9.0%
中学校	2,331 人	29 人	433 人	462 人	19.8%
計	13,104 人	66 人	1,370 人	1,436 人	11.0%

(4) 各家庭徴収額に関する意見・感想などの調査について

各家庭に負担していただいている旅行代金の徴収額についての調査は行っていません。

3 令和6年度海外修学旅行実施に向けての経緯について

- ・ 令和4年6月

令和5年度予算について検討するに当たり、これまでの関西方面への修学旅行に代わり、国際人育成の取組の一つとして、海外での研修の実施について検討を進めました。(参考資料1 海外派遣関連事業の特別区の取組状況について)

- ・ 令和4年7月下旬

これまで実施してきたオーストラリアでの海外派遣の成果に加えて、港区中学生海外派遣の代替としてコロナ禍において実施した沖縄での国内イングリッシュキャンプで一定の成果を確認できたことも踏まえて、代表生徒以外の多くの生徒に海外での直接体験の機会を設けることを教育委員会事務局内において継続して検討を進めました。

- ・ 令和4年9月上旬以降

海外修学旅行として実施することを検討してきたものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和5年度当初予算での要求は見送りました。

ただし、継続しての課題として位置付け、教育委員会事務局内において目的、行先、内容について実施に向けた検討を進めておりました。

海外修学旅行の候補地は、目的の実現性（主な体験や学習内容）、飛行機の移動時間、時差、ビザ要否、コスト、治安面などの観点からオーストラリア、シンガポール、シンガポール+マレーシア、グアムを候補地として検討を進めました。(参考資料2 中学校海外派遣候補地比較表について)

- ・ 令和5年5月

教育委員会事務局では、5月に新型コロナウイルス感染症が5類となったことを契機として、英語科国際研修（海外修学旅行）実施に向けての検討を本格化しました。

また、区長部局と教育委員会事務局で情報共有する場において、学校教育部長から、区立中学校の全生徒を対象とした海外派遣の機会を設けられないか検討を進めてい

ることを情報共有しました。(参考資料3 令和5年度 港区小中学生海外派遣の在り方の検討について)

・令和5年6月上旬

海外派遣の受託実績がある事業者に対して、来年度の中学校3年生の全生徒を対象とした海外修学旅行の実施可否を教育委員会事務局からヒアリングしました。極めて日程的にタイトなものの、来年度、各学校が契約している修学旅行のキャンセル及び、海外修学旅行にした場合の宿泊地、航空機などの予約については、実現可能との回答を得ました。

・令和5年6月中旬

教育委員会事務局から、事業者1者に海外派遣候補地について意見を求めました。事業者からの意見を踏まえて、教育委員会事務局は、目的の実現性(主な体験や学習内容)、飛行機の移動時間、時差、ビザ要否、コスト、治安面を勘案して、シンガポールを行先の候補地とし、モデル校での実施について検討を進めました。

・令和5年6月下旬

中学校長会長、副会長、区立中学校の校長歴の長い校長に対し、個別に英語科国際研修(海外修学旅行)の実現性について教育委員会事務局から各学校等へのヒアリングを行いました。いずれの校長からも、生徒にとって良い取組であるとの声があがりました。モデル校でなく全校実施について肯定的な意見がでました。

・令和5年7月10日

教育委員会事務局での情報共有の場で、教育委員に対し、英語科国際研修(海外修学旅行)について検討状況の情報提供を行いました。

・令和5年7月21日

中学校長会において、教育委員会事務局から全校長に令和6年度英語科国際研修(海外修学旅行)実施についての意見を求めました。校長たちからは、国際人育成の目的を明確にして実施すること等について意見をいただきましたが、反対の声はあり

ませんでした。

- ・ 令和5年7月末～8月上旬

令和6年度英語科国際研修（海外修学旅行）の実施について、副区長、区長まで実施の背景、内容、経費など検討状況を報告しました。

- ・ 令和5年8月21日

教育委員会において、国際人育成に向けた新たな取組としての件名で、非公開にて令和6年度英語科国際研修（海外修学旅行）の実施について報告しました。

4 海外修学旅行費用について

(1) 海外修学旅行経費の内訳について ※見積りの算定根拠は裏面をご覧ください。

①海外修学旅行経費

(単位：円)

No	項目	数量	単位	単価	合計
1	航空券代	860	名	305,000	262,300,000
2	宿泊代	860	名	115,440	99,278,400
3	食事代 (@7,200円:3・4日目の昼食代) (@21,600円:1日目から4日目の夕食代)	860	名	7,200	6,192,000
		860	名	21,600	18,576,000
4	専用車代 (1日目:@720,720円) (2日目:@285,480円) (3日目:@741,000円) (4日目:@1,347,840円) ※空港～ホテル間、観光場所等への移動	10	校分	720,720	7,207,200
		10	校分	285,480	2,854,800
		10	校分	741,000	7,410,000
		10	校分	1,347,840	13,478,400
5	ガイド (3日目:@187,200円) (4日目:@336,960円) ※3日目8時間、4日目12時間	10	校分	187,200	1,872,000
		10	校分	336,960	3,369,600
6	プログラム代 (2日目:@5,960,600円) (3・4日目:@28,800円) 2日目:現地生徒交流、3・4日目:観光	10	校分	5,960,600	59,606,000
		860	名	28,800	24,768,000
計					506,912,400

※旅行保険について、令和6年度予算として2,029,600円を見込んでいます。

②実地踏査経費

(単位：円)

No	項目	数量	単位	単価	合計
1	航空券代	13	名	165,720	2,154,360
2	宿泊代	13	名	53,000	689,000
3	食事代 (@7,200円は、2・3日目の昼食代) (@21,600円は、1日目から3日目の夕食代)	13	名	7,200	93,600
		13	名	21,600	280,800
4	専用車代 (@203,280円は、1・3日目の空港送迎) (@286,000円は、2・3日目の視察)	1	台	203,280	203,280
		1	台	286,000	286,000
		1	台	286,000	286,000
5	視察代	13	名	80,000	1,040,000
計					5,033,040

(単位：円)

合計金額(税込)	511,945,440
----------	-------------

港区中学生海外修学旅行事業業務委託 算定根拠

(単位:円)

No	項目	内容	数量	単位	単価	合計
【海外修学旅行】						
1	航空券代	往復代(諸税・燃油サーチャージ代含む) ※実施期間の中で最も高いシーズリティを想定 ※添乗員など随行者実費も単価に組み込み済	860	名	305,000	262,300,000
2	宿泊代	3泊(2名1室) ※本部会議室借用料・緊急対応部屋(急患用)費用も単価に組み込み済	860	名	115,440	99,278,400
3	専用車代	空港送迎～夕食会場～ホテル(1日目)	10	校分	720,720	7,207,200
		セントーサ島～ホテル(2日目)	10	校分	285,480	2,854,800
		セントーサ島観光(3日目)	10	校分	741,000	7,410,000
		市内観光～空港送迎(4日目)	10	校分	1,347,840	13,478,400
4	ガイド	3日目	10	校分	187,200	1,872,000
		4日目	10	校分	336,960	3,369,600
5	食事代	昼食(3日目・4日目)※2日目現地生徒交流は各自	860	名	7,200	6,192,000
		夕食(1日目・2日目・3日目・4日目)	860	名	21,600	18,576,000
6	プログラム代	現地生徒交流(2日目)	10	校分	5,960,600	59,606,000
		セントーサ島・市内観光(3日目・4日目)	860	名	28,800	24,768,000
			小計			506,912,400
【実地踏査】						
1	航空券代	往復代(諸税・燃油サーチャージ代含む)	13	名	165,720	2,154,360
2	宿泊代	2泊(2名1室)	13	名	53,000	689,000
3	専用車代	空港送迎(1・3日目)	1	台	203,280	203,280
		視察(2日目)	1	台	286,000	286,000
		視察(3日目)	1	台	286,000	286,000
4	食事代	昼食(2日目・3日目)	13	名	7,200	93,600
		夕食(1日目・2日目・3日目)	13	名	21,600	280,800
5	視察代	現地生徒交流・セントーサ島見学・市内視察など(2日目・3日目)	13	名	80,000	1,040,000
			小計			5,033,040
					合計金額(税込)	511,945,440

※1SGDを112円にて算出

(2) 新たに必要とされるものについての対応について

海外修学旅行の実施に伴い、新たに生じる経費については、家庭での負担を基本とします。

内 容	想定金額
パスポート取得費用	11,000円
旅行行程外の現地での活動に係る実費	5,000円
外貨交換費用	1,000円
団体保険以外に個人で加入する海外渡航保険	5,000円
合 計	22,000円

(3) プログラム代（企画料）の内容及び委託する理由について

①内容

現地での研修プログラムについては、旅行日ごとにプログラムを実施する場所等は全校共通とすることを想定しています。各学校の生徒は、海外修学旅行に向けた事前学習において、プログラム実施場所ごとに、現地で主体的に学びたい内容を選択できるようにします。

■現地学生との交流（2日目） 596万円／校

- ・現地学生と4人程度のグループで市内観光地を巡る活動
- ・現地校での学生と英語を活用した交流
- ・現地校での授業体験

■セントーサ島見学（3日目）2万円／人

- ・海外の自然を体験できるアクティビティ
- ・現地施設内での英語を活用した体験活動

■市内観光等（4日目）1万円／人

- ・現地企業と連携したキャリア教育
- ・シンガポール動物園や植物園等の自然体験施設での活動
- ・現地SDGs事情について学習できる施設での体験活動

②委託する理由

プログラムについては、次の理由により専門性のある事業者へ委託を予定しています。

（主な理由）

- ・研修プログラムを実施できる現地校や交流する学生の手配が必要であ

- ること。
- ・現地施設への団体申込、団体入場券の発券が必要であること。
 - ・現地での生徒の安全確保及び円滑なプログラム実施のための現地コーディネーターの手配が必要であること。
 - ・団体の航空券手配、SGアライバルカード（電子入国カード）の取得が必要となること。

5 財政課による調整内容について

要求内容を確認した後、所管課に対し、事業実施の目的、対象者及び費用の内訳等ヒアリングを実施するとともに、保護者の費用負担の考え方についての考え方を調整しています。

事業者の選考に当たっての手順等を確認する中で、現地プログラムなどの企画提案を受けて事業者を決定するプロポーザル方式で行うための経費の要求がなかったため、事業候補者の選考に係る経費を増額しています。

また、海外修学旅行の経費については、債務負担行為の補正となりますが、仮に限度額を超えてしまう場合には、契約ができなくなってしまうことも考えられることから、限度額としては、見積金額にあわせる調整を行っております。

6 補正予算計上の考え方について

修学旅行の実施については、国内の場合であっても、前年度から準備を行う必要があることから、海外修学旅行の実施に当たっては、新年度の当初予算では準備が間に合わないことが見込まれるため、補正予算において予算を計上する必要があると考えています。

現在、令和6年度予算の編成作業を行っておりますが、予算編成方針の重点施策としても、次代を担う「子ども」を地域全体で育む施策を重点施策として位置付けております。海外修学旅行については、学校教育として提供する事業であり、子どもたちに、中学3年生という時期に実際に海外に行く機会を提供していくことは有意義なものであると考えております。これまで進めてきた国際人育成に向けた取組の一つとして重要な取組になると考えています。

7 事業者選定の方法及び補正予算の経費の内訳について

(1) 事業者選定の方法について

公募型プロポーザル方式により選考委員会を設置し、選考を行います。

選考委員会は、区職員2名、外部委員（有識者）3名の5名での構成を予定しています。

(2) 補正予算の内訳について

①選考委員会にかかる費用について

外部委員への謝礼 計180,000円

(内訳)

委員長 22,000円×1名×3回=66,000円

委員 19,000円×2名×3回=114,000円

②実地踏査にかかる費用について

地内・特別旅費（13名） 564,000円

保険料（13名） 31,000円

8 保護者宛のお知らせが配付された経緯について

<令和5年9月1日（金）>

来年度に中学校3年生となる現中学校2年生の保護者が、すでに学校ごとの修学旅行先を把握していることから、来年度の修学旅行先が変更になる可能性について事前周知することを予定していましたが、常任委員会の報告の前だったことから、学校長への事前周知に留めることとしました。

<令和5年9月4日（月）>

区民文教常任委員会にて、海外修学旅行実施について保護者に周知することを報告した後、プレス発表後に保護者が学校に期待や不安を訴えてくることも増えたことから、翌日に保護者への周知を各学校から行うことを教育委員会事務局から通知しました。

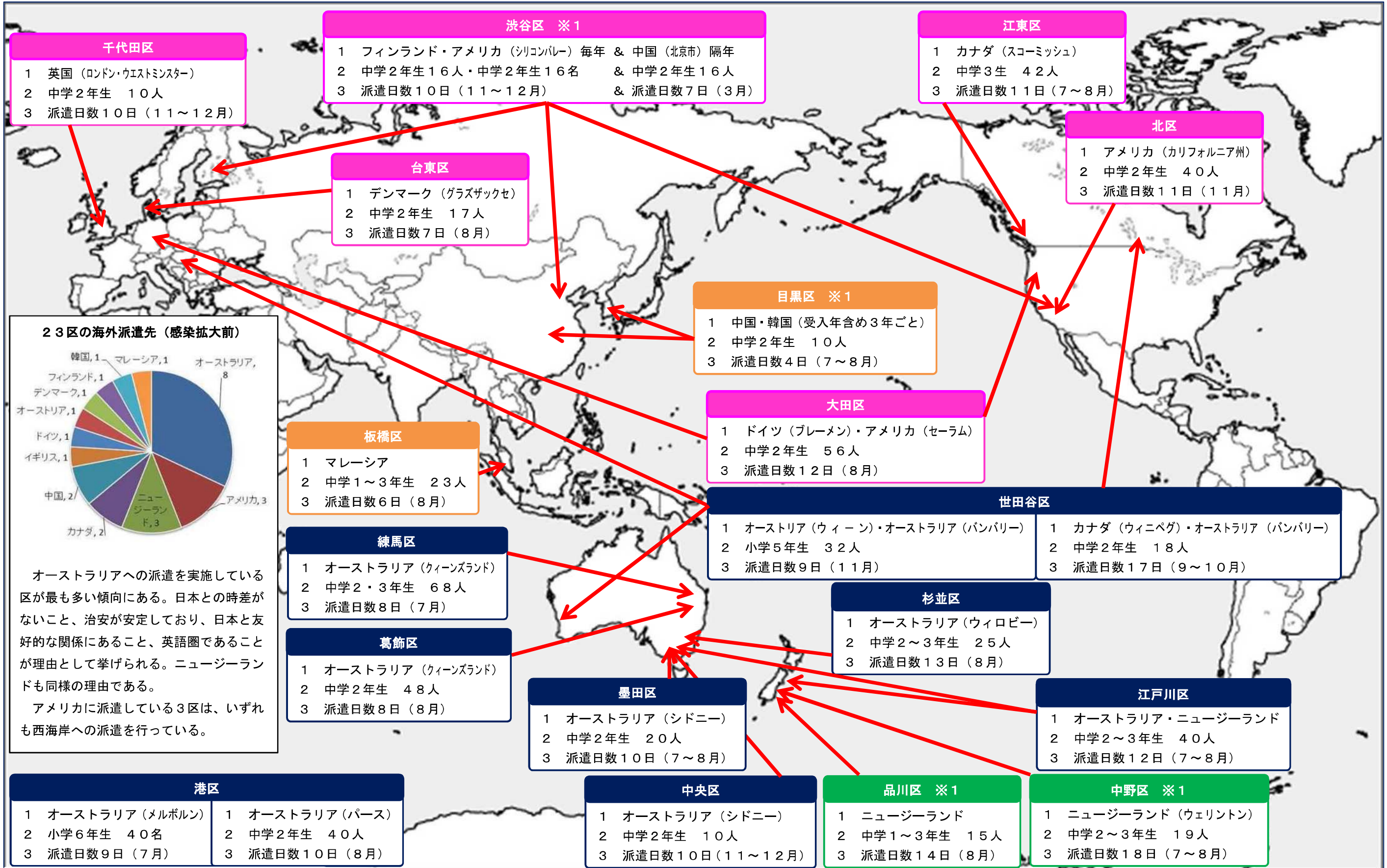
<令和5年9月5日（火）>

各学校から、令和6年度海外修学旅行実施について保護者向けに周知を行いました。

コロナ感染拡大前年（H30）23区の取組状況

小学生海外派遣の実施区→2区（港区、世田谷区）

中学生海外派遣の実施区→（港区ほか18区）※区長部局の予算で実施している場合も含む。



※1 教育委員会以外が事業を実施している区

中学校海外派遣候補地比較表について

	オーストラリア (現行の海外派遣場所)	シンガポール	シンガポール+マレーシア	グアム
目的の実現性 (主な体験や 学習内容)	現行の海外派遣の目的通り、外国の文化・社会に触れられる直接体験(ホームステイ体験や現地校での授業体験)ができ、自然にも触れられる(ワイルドライフパーク)見学箇所も訪問可能です。	アジア圏でありながら、公用語の一つに英語があるため、英語を用いた現地学生との交流が可能です。また、2061年までの水資源の完全自給化を目指しており、水の保全・創出・活用を掲げる港区と親和性のある学習が実現可能です。	シンガポールからバスでの日帰り移動が可能なマレーシア第二の都市・ジョホールバルでは、マレー文化・イスラム文化に触れ、多文化理解を深めることができます。ジョホールバルの学校との交流も可能(授業体験は不可)です。	SDGs 学習(リゾート地であるため海や海洋生物を守る)・平和学習(太平洋線戦争の激戦地であるグアム)・チャモロ文化(原住民の文化)を学ぶことが可能です。
飛行機の 移動時間・ 時差・ ビザ要否	移動時間については10時間を要します。時差は日本-1時間です。渡航に際して、電子渡航認証(ETA)が必要です。	移動時間については7時間程度を要します。現行の海外派遣より短い移動時間で到着できます。時差は日本-1時間です。ビザは不要です。	移動時間については7時間程度を要します。現行の海外派遣より短い移動時間で到着できます。時差は日本-1時間です。ビザは不要です。	移動時間については4時間程度を要します。現行の海外派遣より短い移動時間で到着できます。時差は日本+1時間です。ビザは不要です。
コスト	ホームステイ体験・現地授業体験があるため、全校で実施の場合は費用がかさむ可能性があります。	オーストラリアよりも費用を抑えることが可能です。	日帰りでのマレーシア立ち寄りであれば、シンガポール単体に比べてコストが大きいかさむことはありません。	移動時間が短い分、航空券代金を抑えることが可能です。
治安面	銃の所持が無いこと、また、多民族国家(人口の1/4以上が国外出生)であるため、安全に過ごすことが可能です。	安全性から、日系旅行会社の修学旅行取扱人数第一位の方面となります。	世界有数の親日国家であるため、安全性は高くなります(ジョホールバルは、外務省の危険エリア該当地域の該当外)。	アメリカ合衆国の準州であるため、銃の所持が認められています。
問題点	ホームステイ体験・現地授業体験が可能であるものの、人数規模が大きくなることから、ステイ先や学校の受け入れに時間を要する可能性があります。	1日は機内泊となります(最終日早朝着)。英語は使用できますが、オーストラリアのような英語ではなく、独特のなまりがあります。	1日は機内泊となります(最終日早朝着)。英語は使用できますが、オーストラリアのような英語ではなく、独特のなまりがあります。	6~10月は雨季、7月~9月は台風上陸の可能性が高くなります。リゾート地であるため、企業を交えた学習は困難です。

令和5年度海外派遣 目的

港区立小中学校の児童生徒を海外に派遣することにより、外国の自然、文化及び社会に触れさせるなどの直接体験を通して、国際理解及び国際感覚の基礎を培い、コミュニケーション能力を身に付けさせることを目的とする。

令和5年度派遣先

- 小学校児童 オーストラリア 西オーストラリア州 パース市
【現地校】 ○○○小学校 ○○○小学校
- 中学校生徒 オーストラリア 西オーストラリア州 パース市
【現地校】 中学校 ダンクレイグ中学校 リッジビューセカンダリーカレッジ中学

令和5年度派遣期間

- 小学校 8泊9日
令和5年度 7月24日～8月1日
- 中学校 9泊10日
令和5年度 8月9日～8月18日

小中学生海外派遣の現状

◆派遣児童生徒の資格

- 1 港区立小学校の第6学年又は港区立中学校の第2学年に在籍している者
- 2 港区に在住している者
- 3 心身共に健康で協調性に富み、計画に従って規律ある行動ができる者
- 4 本人が積極的に海外派遣を希望し、保護者の同意が得られる者
- 5 派遣のための事前及び事後の研修会等にすべて参加できる者
- 6 帰国後、派遣体験を積極的に生かそうとする者

◆派遣人数

小学校第6学年児童 40名以内
中学校第2学年生徒 40名以内

◆引率指導者

小学校、中学校ともに
派遣児童生徒数÷8人（小数点以下四捨五入）
+団長（校長）+養護担当教員+指導主事（※年度により事務局管理職）
（例）小学生40名÷8人+1+1+1=8人

◆事前学習及び事後学習、報告会について

派遣児童生徒は、派遣に伴う団体行動、語学、外国諸事情など、海外における生活に必要な事項の事前学習を受ける。派遣児童生徒は、帰国後、速やかに派遣の成果を報告する。

◆保護者の費用負担

派遣に必要な費用の一部及び私的な諸費については、派遣児童生徒の保護者が負担する。

令和6年度 港区小中学生海外派遣の拡充に向けて

平成19年度から開始している港区小中学生海外派遣事業は、コロナ禍の期間、区内でのMINATOイングリッシュプログラム（R2.R3）、沖縄でのイングリッシュ・キャンプ（R4）への代替開催となったものの、すでに第16回の開催を数えています。参加した児童・生徒は外国等の自然や文化、歴史に触れ、自国とは異なる環境において異文化への理解やコミュニケーションに必要な力を身に付けてきました。これまでの成果を踏まえ、令和6年度からは区立中学校の全生徒が、外国語でコミュニケーションをとる直接的な機会を設け、区立中学校の魅力をさらに向上させる契機としていきます。小学校は、これまでの海外派遣がより充実したものになるようプログラム内容を見直します。

中学校海外派遣の拡充について

全ての検討案において全ての中学2年生が760名程度が対象となることを想定。また、実施は令和6年9月から12月での実施で検討。

	プランA 全中学生海外派遣	プランB 国内イングリッシュ・キャンプ	プランC TGG(東京都英語村)終日体験
期待される点	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての公立中学校の生徒に海外派遣の機会を設定できるのは港区独自の取組となる。 ・海外の本物の文化、歴史、自然に直接触れるかけがえのない体験をすることができる。 ・ホームステイを実施した場合、海外での生活体験を味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期集中での英語体験により、コミュニケーション能力の向上を集中的に図ることができる。 ・学校だけでは味わえない英語での生活を通して、国内でも海外に類似した体験をすることができる。 ・学校単位で行く場合については、国内であるため受入先の施設との日程調整が比較的に簡単に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY) は隣接区（江東区青海）にあることから移動時間も少なく、日帰りでの実施が可能である。 ・日常から離れたグローバルな世界を疑似体験することが可能である。 ・通常の校外学習の一環として実施することができ、コストも比較的に安く実施できる。
懸念点	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた宿泊行事とした場合、標準授業時間数の確保(特例校として実施している英語科国際等を削減しての実施を検討することも考えられる) ・学校単位で行く場合を想定したとしても引率教員の確保が困難かつ負担増である。 ・事業実現に向けてはコスト感がつかめない。現行オーストラリアで1人単価約100万円である。 ・現地受け入れの制限により、学校単位などで行先による差が出る可能性は十分にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に位置付けた宿泊行事とした場合、標準授業時間数の確保(特例校として実施している英語科国際での実施検討) ・国内でもあり引率教員の確保は比較的簡単にできるものの、現行の宿泊行事との棲み分けが必要になる。 ・国内であっても、予算が行先によって大きく異なる。※福島の前プリティッシュヒルズの場合、バス借上・宿泊費を見込んでも1人10万以内は想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校も利用する非常に人気の高い施設であるため、利用について日程調整が必要になる。 ・日帰りのため、管理職・担任・英語科教員での引率が可能である。 ・予算についてはバス借上、生徒1人あたり800円、教員1人あたり1000円程度であるため、コストは比較的安くおさえられる。

【参考】令和5年度 小中学生海外派遣予算見込み

	派遣人数	引率人数	計	引率	契約金額	1人当たり	自己負担
小	40	10	50	校長1 教員6 主任指導主事1 指導主事2	48,698,660円	973,973円	68,200円
中	40	9	49	校長1 教員6 教育長1 指導主事1	48,974,940円	999,488円	72,400円

・プランA・プランBのコストは、おおよその方向性が見えないと検討できない状況にある。
・自己負担金については、修学旅行の各校の積立金（5万程度）と同等程度になるよう検討。